

韓国、慶州、ポハンへの旅

高部英明

(本原稿はレーザー研所内版のために書いたものである)

1. 初日

5月30日から6月3日まで、日本物理学会理事（国際交流委員会委員長）としてアジア太平洋物理学会連合(AAPPS: www.aapps.org)の第12回理事会に出席してきた。理事会は1日半で、慶州(Gyeongju: キョンジュ)の市内から4キロほど東に行った、Bomun Lake Resortの湖畔にある14階建てのHotel Hyondae（現代自動車のヒュンダイ）で開催された【写真1, 2】。行きは関空9:30発のJAL。阪大核物理センター長の土岐さん（AAPPS理事）と一緒に。飛行機から、釜山でバスを待つ間、また、バスで慶州に着き、昼食をし、タクシーでホテルに着くまで、景色を見る暇もないほど、話をした。独法化後の阪大のこと、両研究センターのこと、理学研究科のこと、AAPPSのこと、と話が尽きない。

ホテルには2時頃着いた。立派なホテルである。後で会長の Namkung に聞いたのだが、かつての大統領選挙で現代自動車の会長が出馬した。その時、政財界や地元の主立った人たちを招待し、歓待するためにこのホテルを建てたそうである。立派なホテルで、ツインの部屋を各自あてがわれた。料金表だと 220,000 Won (=2.2万円)の部屋を半額で利用できた。当日は、飛行機の中で「釜山空港が濃霧のため、もしかしたら関空に引き返すかもしれない」とのアナウンスがあった。しかし、幸いにも霧の中、着陸することができた。釜山空港 [正式名は金部(Kimhae)国際空港] の滑走路は1本で、それが、川に沿ってあるため風向きにより湿気が滑走路を覆うとのこと。

7時からレセプション【写真 2.2】。2階の部屋に丸テーブルが3つ用意されており、各自座る。私の横は会計担当の Ko 氏。彼はポハン加速器研究所の所長。子供の話などした。彼の息子は大学は化学に進んだ。親は物理に進んでほしいと思いつつも。ところが3年頃から物理にも興味を持ち始め、結局、化学と物理の両方の学士を取得。その後、研究に進んだが、今は「俺は Cosmetic Physics & Chemistry」をやるんだと言っている。どうも妹が「化粧品ならいつまで経っても需要は減らないわ」など悪知恵を付けたらしい。困ったもんだ。など、たわいのない話をした。

今回、AAPPS の創立に有馬先生と一緒に関与した小沼先生（先生は AAPPS の特別顧問）に

は報告せぬまま「沖縄に本部」の件を、北原（物理学会前会長）、土岐、高部の連携で進めてきた。報告書に書いたように【報告書希望者は高部まで。ファイルで送ります】、会議10日ほど前に議題の案内があり、本部の件が挙がっていないことから、土岐さんや私が **Namkung** にかみついた。そんな会話を小沼先生にもメールで CC しながら、進めた。その結果、小沼先生との間にかなり溝ができてしまい困り果てた。そこで、レセプション終了後、小沼先生の部屋で経緯や主旨を含めて丁寧に説明することになった。まず、小沼先生から彼なりの問題点を3つの段階にわけて説明があった。それをじっくり聞いた上で、私が、3つの段階の問題に対する答えをし、かつ、経緯についても丁寧に説明した。2時間ほどの話し合いで、小沼先生の理解が得られ、翌日の会議に臨むことになった。

2. AAPPS 理事会

理事会での議題やその詳細は報告書に書いたので省く。理事会に加盟学会から、日本、韓国、中国、台湾、マレーシア、ベトナム、インドからの参加があった【写真3】。3食付きで、レセプションがフランス料理、初日の昼はかけ麺。真っ黒なルーを暖かい麺にかけてかき混ぜて食べる。韓国風の「かけ麺」で韓国の子供は皆これが好き。色はグロテスクだが確かにおいしい。ホテル内には中華料理のレストラン「南京」や、日本料理レストラン「奈良」もある。しかし、夕食は、4台の車に分乗し、韓国料理の老舗へ【写真4, 5, 6】。韓国では銀色の金属製の箸とスプーンが出る。銀の箸は、昔、宮廷で食事に毒が盛られていると銀が変色するのでわかることから、使用されていたとか（ほんとかな?）。

ここのお酒は梅酒だ。梅の身も入っている。大変おいしい。食を誘うのだろう。色々と珍しい料理が運ばれてくる。私はこのお酒が気に入って、かなり飲んだ。横の方では小沼先生の大声が響いている。

食事を終えた後、すぐホテルに帰る人と、近くの新羅王朝の古墳群を歩く人に分かれた。私は後者に。慶州は韓国の奈良・京都に相当するところだそう。新羅はここ慶州（当時の名は金城）を首都とし、676年に朝鮮半島を統一、935年に滅びた王朝である。古墳公園にはライトアップしており、そぞろ歩く人も沢山いる。とても平らな公園を歩きながら、まずは、5-6世紀頃の天文観測所を見る。続いて、「半月城跡」に進む。氷を夏場まで保存する氷室や、真っ平らな水面にライトアップして映る木を見たり。小沼先生はハングルがかなり読める。**Namkung** 婦人がガイドを務めた。婦人が説明のプレートの前で英語で説明をしようとする、小沼先生が「ちょっと待って」と言っただけでハングルを読んで意味を言う。かなり当たる。すごいものです。

Namkung に聞いてみた。ハングルはどう読むのかと。彼のように漢字を知っている人間には、ハングルを見ると一字一字に対応する漢字が頭に浮かび、漢字で意味を理解するのだそうだ。若い人は漢字を知らなくなっているから、そのまま理解する。漢字と言えば、韓国の済州島は韓国人のハネムーン場所としても有名である。最近、済州島は中国人観光客がビザなしで来ることができるようになったそうで、済州島には漢字併記が増えているとのこと。私もハングルに少し興味を持った。いつか勉強してみたい。

朝食はバイキング形式で、食べきれないほどのメニューが並んでいる。キムチも色々な種類がある。2日目の午前中で会議は終了。昼食の後、ポハンに移動するメンバーは2台の車に分乗し、出かけた。小沼先生、多田先生と私が Namkung の車、ベトナム、インド、マレーシア組が Namkung 婦人の車。多田先生はポハンを訪問の後、今日中に自分で列車で帰る。多田先生は列車の旅が大変好きとのこと。だから、ヨーロッパなどでも会議の目的地まで飛行機を乗り継がず、ユーレールパスで、電車で向かう。35ヶ国の列車に乗ったとか。今回も韓国全土の列車ルート地図を持参し、乗ったところに青い線を引いている。

3. ポハンへ

小沼先生は助手席で道を確認しながら行くのが好き。バスの時も一番前の席に座る。3年前に同じ道を車で通ったとのこと、しっかり建物を覚えている。感心です。この意欲が若さの秘訣でしょう（こんなこと書くと、また怒られるかな？「人のことを許可無く書くのはプライバシーの侵害だ」などと。でも、先生、許して）。

ポハンには米国の CALTECH（カリフォルニア工科大学：少数精鋭の超エリート校。今は実力は MIT を上回る）をモデルにした POSTECH (Pohang University of Science and Technology：ポハン工科大学)がある。1986年、POSCO(Pohang Steel Company: 昨年度世界第5位の製鉄生産量を誇る製鉄会社)が設立した大学である。現在も POSCO が運営費のかなりを出している。我々はまず、大学に隣接した Hilton Hotel にチェックイン。このホテルは元来、POSCO の持ち物で、POSCO や POSTECH への訪問者のみが利用できるようになっている。部屋は立派なのに一泊 5,500 円と安い。

その後、バスで移動して緑豊でゆったりしたキャンパス内を走り、途中から歩いて、大学の中心の広い石畳の歩道に沿ってある APCTP 本部を訪問した【写真7, 8】。設立時には APCTP はソウルに本部を構えていたが、2001年8月にポハンに移った。ところが、この本部のすぐ近くの歩道の中央広場にある図書館が新しい図書館に移動したため空になり、その5階部分に本部は移動することになっているそうだ。その建物に Namkung が引率してく

れ、見学した。何でも10億円程度かけて5階建ての旧図書館を大改装するそうである。かなりオフィスも広くなる。この後、Namkung と別れ、バスで PAL (Pohang Accelerator Laboratory) に移動し、見学をした。Namkung は明朝7時からの葬儀(偉い方が無くなり)に出席するため、これからソウルに飛ぶそうだ。

PAL 研究所の玄関を入ると「Yesterday is history. Tomorrow is mystery. Today is a gift.」という看板が掛かっていた。気に入りました。後で聞いたが、この言葉は第2次大戦中の米国大統領、ルーズベルトの夫人、エレノアの言葉だそうです。3階に上がったところに所長室があり、AAPPS 会計担当の Ko 氏が笑顔で迎えてくれた。まず、研究書の紹介DVDを大型テレビで見る。希望者にはDVDをあげるというので、もらってきた。ビデオは女性が研究所を巡りながら活動を紹介するというもので、素人にも取つきやすいように工夫している。

線形加速器で2.5GeVまで加速された電子は、貯蔵リング内を走り、30本近いビームラインの先の実験装置に投入される。日本では西播磨のスプリング8(8GeV)が有名。色々な実験をしている。ポートはヨンセイ大学やサムソンなど外部の研究者に開放している。

見学を終えて、一端、APCTPに戻り、バスで夕食会場に移動した。日本と同じ田園風景の広がる中に、一軒の料亭がある。農家が経営している、民族料理店のようだ【写真12, 13】。長テーブルに合計8人が座る。今日のお酒は日本酒に似たお酒。味が少し違う。餅米で作ったお酒(?)。この地方の有名なお酒とか。これがおいしい。目の前は、台湾の Tsui さんだ。彼と、台湾のことについて話す。李登輝のことなど。彼もよく知っている。70才と言うから当然だ。日本語は忘れたが、小さい時の記憶があるようだ。決して悪いものではなさそうだ。

どんどん料理が運ばれてくる。肉でも何でも、まかないの人がハサミで切っていく。この国では、ハサミをよく使う。ご飯も餅米が多い。お酒がおいしい、斜め向かいの Swan がどんどん注いでくれる。だいぶ飲んだ頃、民主主義の話になった。インド人が「インドほど民主主義的な国はない」という。「そんな馬鹿な」と、8人が一緒になって民主主義とは何かを話し始める。收拾がつかなくなるほど、論客が多い。宴も終わりにになり、Swan が困った顔を始めたので、私が音頭をとった。「それぞれ民主主義に思い入れはあると思うが、我々の最大の使命は民主主義的な AAPPS を構築することにある。これにつけるのではないか」と。我ながらうまくまとめた、自画自賛。

バスは陽気な客人を乗せたまま、ホテルに直行。私はホテルで、日本から持ってきた台湾で買ったDVDを見た。デボラ・カー主演の「クオ・バディス」(ドミネ、と続いて「主よ

何処へ」となる。こう聞いたのはペテロで、ローマでの迫害に失望しユダヤの地に帰るところであった。しかし、主キリストの幻影に出会い、主が「ローマ」と答えたことから彼はローマに戻り、ローマ軍に捕まり貼り付けになれる。主と同じ貼り付けでは恐れ多いと、逆さの貼り付けを願う。何百年か経って、ペテロが貼り付けになった場所がわかり、その地にミケランジェロが設計した、サン・ピエトロ大聖堂が建築され、今日のバチカン市国となった)。

後で知ったが、この原作者はポーランド人でノーベル文学賞受賞者とのこと。知りませんでした。茨木教会の神父さんに教えて頂きました。時代は暴君ネロの時代。キリスト教徒弾圧の話。暴君は自分勝手に描いた新しいローマに作り直すために、兵に命じてローマを焼き尽くし、それを、キリスト教徒のせいにする。

まだ飲み足りないのか、興味本位か、一階にあるバーに入ってビールを飲む。コロナ・ビール(メキシコのビール)。お客は誰もいない。カウンターで給仕の女性に英語で話したが、英語わからない。1本、おつまみ付きで700円程度。後は、部屋に帰って休んだ。

翌朝、Swan との待ち合わせの時間を待つ間、ホテルの庭を歩いた。とても広い庭でバラの花がきれいに咲いている【写真16, 17】。池もあり、その向かいには宿舎のような団地がある。ホテルに Swan が迎えに来た。彼も一緒にホテルで朝食をとる。Hieu は早々と食事を終えていた。小沼先生、インド人、Swan、高部で食事をとる。韓国独特の朝ガユのような食事を注文。食事を終え、小沼先生と別れて、Hieu, インド人、私は Swan の車で APCTP へ。

あさ、10時から私は POSCO (製鉄所) の見学に行くことになっていた。小沼先生が3年前、来た時に見学し、大きな鉄の塊が真っ赤に燃えて出てくるのに感心したとか。そこで、高部君も見学してはと。前日予約しておいた。研究センターの車で送ってもらう。事務の人と運転手。3人で、15分も走ったか「資源有限、創意無限」と書いた POSCO の入り口から入る【写真14】。かつて、福田元官房長官のお父さんの福田首相がレーザー研を見学した際、揮毫していったのが「資源有限、人知無限」であった。いまだに、レーザー研の廊下に飾っている。やはり漢字圏の国だ、見るだけで会社のモットーがわかる。

見学者用のビルに連れて行かれる。丁度、小学生達がにぎやかに出てきたところだった。私は VIP 扱いとかで、大きな映画上映室に連れられた2人と入り、日本語の映画を上映してくれた。その後、記念品を頂き、車に説明の女性が乗って、製鉄所の中を右に左に走る。走りながらガイドの女性が「英語ですみません」と言いながら、説明してくれる。しばらく走って、車を降り、巨大な赤い鉄の板をジェット噴射の水をかけながら、のぼしては冷や

す自動行程を見学した。写真を撮ろうとしたら「撮影禁止」とのこと。たいしたハイテクとは思えないが。

見学は大方こんなもの。なかなか面白かった。

4. APCTP 所長 Swan Kim との会話

有馬先生は、第1回APPCの実現に決定的な役割を果たしました。しかしAPCTPに関係したのは後からで、最初は山口嘉夫先生が、日本だけでなく全体をプロモートしていました。山口先生は最初から今年まで理事でした。韓国で熱心だったのは、ソウル国立大のY.M.Choです。Choは、AAPPSでC.N.Yang と知り合ってから、一貫してYangを軸にして韓国にセンターを作るために動きました。初代の所長と理事長はC.N.Yang が兼ねていました。有馬先生が理事長になったのは、Yangが辞めてからです。Namkungが関係するのは、センターがソウルからポハンに移る時からです。現在、Namkungは現地理事長の立場にあります。

詳しくは報告書を読んで頂きたい。Swan Kim 彼と話したのは

- (1) 物理オリンピックの件：第35回の物理オリンピックを韓国が主催する。ポハン工科大学が会場で、70ヶ国350名の高校生と、随員員含めて1000人が参加。その、Secretary General が APCTP 所長の Swan Kim。彼からは「アジア太平洋で物理オリンピックに参加しないのは日本と北朝鮮だけだ」と強く言われた。
- (2) APCTP の財政事情など良くなったこと。プログラムを拡大する。私が提案した AAPPS の本部の機能は APCTP の機能と抵触する。まずい。解決策を見いだしたい、と2時間にわたって議論し、合意に至った。

詳しくは報告書を読んでください。

5. 終わりに

国際舞台での、理事会のような大きな決定事項に参加したのは初めての経験である。外国出張で、米国や欧州の連中と交渉ごとをしてきた経験から、自身はあったが、多国を相手の交渉、それも、学会という多人数の意見を代表した理事達との交渉ごとの難しさを実感してきた。14ヶ国の内、台湾、韓国、中国、オーストラリア、香港（後者2つはメールにて会長より）の賛同を得ていると思いついていたが、一端、会議の席で誰かが疑問を述べると、皆、口が重くなるものだ。

今回の場合、私が琉球大学に AAPPS の本部を置きたい旨の説明をした際、議論には入って最初に発言したのは、AAPPS 設立当時から関与してきたマレーシアの理事 Chia さんである。彼が「設立の準備で、皆よくシンガポールに集まった。だから、本部を置いたらシンガポールが最も自然だ」という発言をした。それに応じるかのように誰かが「AAPPS に本部が必要かどうかの議論が先決だ」と。台湾の物理会長の Chang さんが、本部のような機能を持つ場所があっても良い、のような発言をしてくれたが、会長の Namkung が煮え切らない。

Namkung とは昨年 3 月、台北で会って以来、メールや電話で、本部の件について良く議論した。彼は、ポハンの APCTP がどうにもならない状況で、私たちの本部を沖縄に創設する件を支持してくれていた。しかし、外交交渉とは難しいものであると、今回、切実に実感させられた。

会議の 10 日ほど前、AAPPS の会長である Namkung (韓国) が「本部の件は会議で時間が余れば議論する」と返事してきた。土岐さんと私は驚くやら、怒るやら。何とか、議題に載せることはできたが、Namkung に議論を尽くして結論を出す意欲がない。私は決して Namkung を攻めるつもりはない。各国の情勢は刻々変化しており、その事情に合わせて理事はスタンスを代えざるを得ない場合がある。今回がその場合だ。

結果として、琉球大学に本部設置は可決できなかったが、10 月までに土岐、北原さんと連携して全加盟学会の賛同を獲得したいと思う。欠席者もいる理事会で、数の論理で設置を決めても、新たなゴタゴタが始まるだけだ。

「日本に本部を」の提案はマレーシアの理事達には「AAPPS を日本に牛耳られる」という懸念を生んだと推測している。従って、APCTP との関係も考慮して「本部」ではなく「事務局」の提案に差し替えて加盟学会の理解を得たいと考えている。

帰国して、物理学会理事会への報告書をまとめ、6/12 (土) の朝は、小沼、北原、榊 (応物会長)、多田 (応物元会長)、黒川 (KEK) の皆さんに集まって頂き、報告会と、今後の対策を話し合った。その結果が事務局構想であり、AAPPS 機能の分散化である。貴重な意見を多数いただき、感謝している。

琉球大学にも報告書をそのまま添付で送った。本部の決定先送りには、落胆していたようだが、琉球大学の主体的な活性化のための拠点形成で概算要求に望むとのことで安心した。理学部長からも理学部の順位 1 番で出すことになりました、の言葉には頭の下がる思いであった。

「多国間の外交交渉とは水物である」ということを実感した。しかし、慎重に過ぎると何事も進まないし、私はドン・キホーテのつもりで対応している。国内の受け入れ態勢（琉球大学との交渉）と加盟国との合意（外交活動）を並行して進めなければいけないところに、多少の慎重性を欠く点も出てくるが、幸い、北原、土岐さんという前向き指向の仲間
に励まされ、ここまで来ているのが実情である。



写真1：会場のホテル・ヒュンダイ（玄関側）



写真2：9階の私の部屋からの景色。右は湖。



写真 2.2 : 会議前夜のレセプションの様子。



写真 3 : 理事会の様子



写真4：初日の夜。伝統的韓国料理。



写真5：同じく晚餐



写真6：晚餐の韓国伝統料理店の夜景



写真7：ポハン工科大学の中央通り。左に Namkung が APCTP 本部に入ろうとしている。



写真8：APCTP の前で。多田、小沼（左より）両先生と。

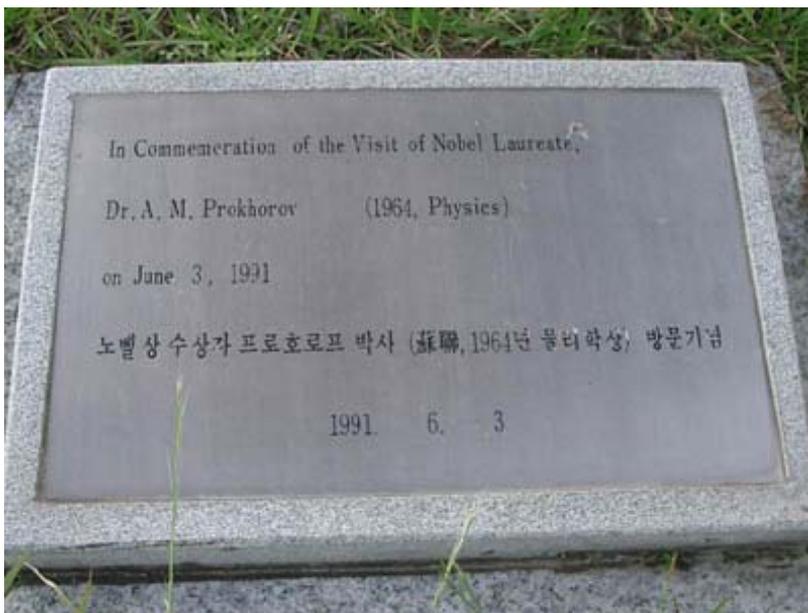


写真9：中央通り中ほどにここを訪問したノーベル賞学者の記念碑と記念樹がある。これは、レーザーの原理発明者の一人、プロコロフが91年6月3日に記念樹した記念碑



写真10：このような記念碑と記念樹が3カ所ほどにある。



写真11：中央通りの広場には6つの台座と4つの胸像がある。後ろに見えるのは Einstein と Edison（あと、Maxwell, Newton がある）。残り2つには写真のように胸像はない。写真裏手に「ノーベル賞に輝いた君の胸像が飾られる」とある。しゃれていますね。



写真12：工科大学から20分ほど車でいった田園の中の料亭。ここのお酒はおいしかった。



写真13：「おい、高部君。今、何の写真撮った。」と迫る小沼先生。右はマレーシアの理事 Chia さん。



写真14：ポハン製鉄所の入り口のスローガン。日本と同じです。「資源有限、創意無限」（福田総理が25年ほど前、レーザー研に来て揮毫したのが「資源有限、人知無限」。）人知を尽くしてがんばりなさいと。



写真15：一日だけの滞在なのに、APCTPでは机を用意してくれました。部屋の入り口には”Prof. H.Takabe”と表札まで付けてくれました。台湾でもそうですが、このような心配りが嬉しい。



写真16：ポハンのホテルの玄関側



写真17：ホテルの裏庭。広くてバラが沢山咲いていた。